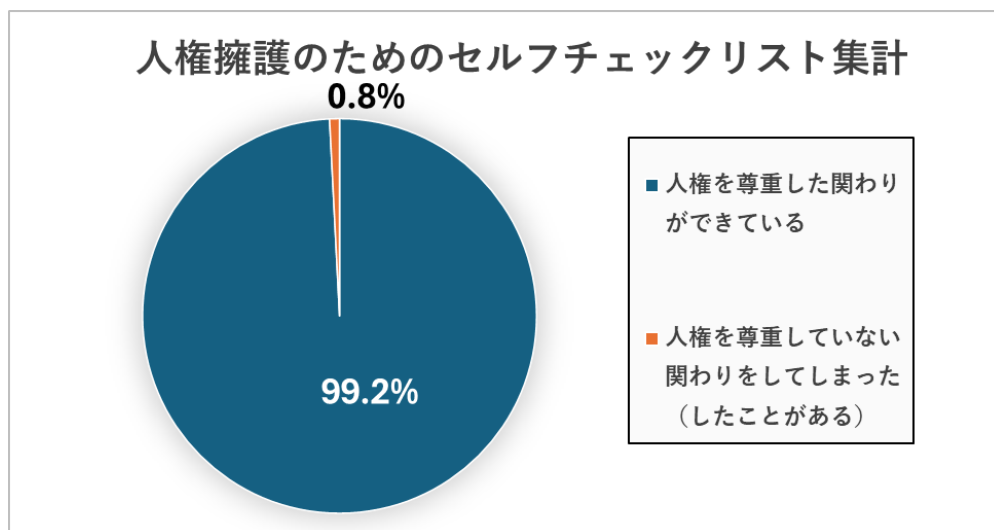


美好保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和7年6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して99.2%が望ましい対応をしていることが分かりました。0.8%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、物理的、時間的な要因から、子どもの話がすぐに聞けない時もあることを職員間で話し合いました。現状も意識していますが、子どもに話が聞けない理由を伝え、代案を提案することや、子どもが話を聞いてもらうことを楽しみに待てるような言い方を意識し、子どもの気持ちを受け止めていくことの大切さを再度確認しました。

並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待てず、腕を掴んで引っ張る。

上記の項目につきましては、子どもの自発的な行動ではあるものの、危険が伴う行動や言葉で伝えるだけでは理解が難しい場合などに、身体で止めること、とっさに腕を掴むこと、「だめ」と伝えることがある現状を職員間で話し合いました。個々の子どもの理解に合わせて、命を守るために必要な行為であることを伝えていくとともに、子どもが不快な思いをしていないか留意し、子どもの危機管理能力を育むやり取りとなるよう意識していきます。

寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばにばかりつく。

上記の項目につきましては、前年度も挙げた内容ではありますが、依然として子どものその日の体調や生活リズムなどを考慮し、個別配慮として行う現状があります。個別に配慮するだけでなく、どの子どもに対しても、気持ちを聞きながらより良い対応が取れるようにしていくことが必要であると職員間で確認しました。子どもの気持ちを尊重し、思いを伝え合う保育が行えるよう、午睡時間の過ごし方についても検討していきます。